

RIETI BBL ウェビナー

都市の風景から読み解く 都市経済学の最前線 －コメント及び質問－

令和8年2月5日

国土交通省国土政策局総合計画課計画官 山岸圭輔

コメント

- ご著書では、新しい実証分析の手法を使った、最新の研究成果を分かりやすく紹介
- どのように産業が集積し、どのように都市が形成されるのか、地形や規制・自治体間の境界は、都市の形成にどのような影響を与えるのか、等々
 - ① 集積の経済の実証（商業×ショッピング外部性、（商業以外の）生産活動×シェアリング、ラーニングなど）
 - ② 自然実験を使った分析（東西ドイツでの国境分断、第2次大戦前後の朝鮮半島との交易等）
 - ③ 高さ規制による地価の変動（福岡空港の高さ規制）
- 本日は、その中でも商業集積についての研究をご紹介いただいた

コメント（個人的な感想）

- 近年のBIGデータ、統計調査の個票データ利用及びそこで用いられる分析手法（差の差の分析、自然実験等）の流行など、経済学の実証分野における新しい分析の存在は認識
- また、これらの先駆的な研究を行った研究者の多数が、ノーベル経済学賞を受賞していることも承知（A.バナジー他（ランダム化比較実験）、D.カード他（差の差分析）等）
- しかし、（個人としては）その分析手法の発展が、世の中における経済的活動の解明にどのように役に立っているのか、実感として分かっていなかった
- 今回の（難しい内容を平易な表現で記した）著書で、これらの新しい分析手法がどのような形で利用されているのか、ということが具体的に分かり、これらの分析手法開発の重要性が実感できた

質問

① 近年の研究成果の実際の政策へのインプリケーション

- 今回ご紹介いただいた商業、産業の集積理論や、著作でも出てきた、高速鉄道、観光、外国人の移住などについて、都市経済学、空間経済学の観点から、政策面において、どのようなインプリケーションがあるか。

② 集積の経済と一極集中について

- 都市経済学、空間経済学の観点から「一極ではなく、多極に分散した方が良い」という理論はあるのか。また「東京への集中は過大であり、分散した方が良い」というメルクマールは存在するのか。そして、分散するとした場合「日本の場合はいくつくらいに分散したらよいのか」というメルクマールは存在するのか。
- ✓ 1990年代-2000年前後において、最適な都市数・都市規模に関する研究が見受けられたが、新しい分析手法の開発が、これらの研究に与えた影響はあるか。